

東京都地方独立行政法人評価委員会 平成20年度第3回試験研究分科会
議事概要

1. 日時：平成20年8月1日(金) 9時30分から12時00分まで
2. 場所：東京都庁第一本庁舎33階北側 特別会議室N2
3. 出席者：板生委員、井上委員、泉澤委員、鞠谷委員、根本委員
4. 議題：1 審議事項
 - (1) 平成19年度産業技術研究センターの業務実績評価(案)について
 - (2) 財務諸表、利益処分に対する意見聴取について
- 2 その他

5. 議事概要：

- (1) 平成19年度産業技術研究センターの業務実績評価(案)の検討

<項目別評価>

資料1により28の項目別評価の単位ごとに評価を決定し、評価説明文について検討した。

【委員意見】

項目4 製品化支援(機器利用、環境試験センター)

- ・夜間利用の実績が物足りない。

項目7 産学公連携等の推進(区市町村、他機関との連携及び人材交流)

・1都3県の公設試験研究機関で構成するTKF(テクノナレッジフリーウェイ)については、新たに「TKFフォーラム」を開始するなど積極的な取組みが評価できる。産技研は今後も一層のリーダーシップを発揮して他県を引っ張っていくなど、中心的な役割を期待したい。

項目8 産学公連携等の推進(産業技術大学院大学や大学等との連携)

・同じ東京都に属する組織である首都大や産技大との連携については、研究者のレベルアップ向上に寄与することからも、今後一層の連携強化を期待する。

項目 1 1 知的財産権の取得及び活用の推進

- ・特許申請について、まだまだ絶対数が少ない。
- ・国の研究所とは異なり、研究だけでなく技術支援も多く行っている中で、各事業のバランスをどのようにとっていくかが重要である。
- ・中小企業技術支援に結びつく特許の取得に配慮してもらいたい。

項目 1 5 技術相談（技術相談実施状況）

- ・件数だけで評価するのではなく、相談の質について評価することも必要。
- ・件数のカウントの仕方が明確でない。相談が依頼試験などに結びついた実績を把握する管理のしくみを考えていく必要がある。

項目 1 7 基盤研究

- ・研究成果の還元については、1人1テーマ程度の発表を目指してほしい。

項目 1 9 外部資金導入研究・調査

- ・外部資金導入研究を積極的に獲得し実施したことは高く評価できる。
- ・研究開発については、今後も特に基盤研究の重要性を認識しつつ、着実な取組を継続していく必要がある。

項目 2 2 オーダーメイドセミナー

- ・オーダーメイドセミナーについては人がよく集まっており、テーマの良さが伺える。

項目 2 4 広報媒体を活用した情報提供、展示会への参加

- ・国の産総研などに比べると、まだまだアピールが足りない。知名度アップのための工夫が必要である。

< 全体評価 >

資料 2 により全体について評価を決定し、評価（案）について検討した。

【委員意見】

- ・全体評価結果については、「業務全体が優れた業務の進捗状況にある」が妥当。
- ・入札や契約の見直しにより経費削減したことは評価できる。
- ・今後は、財務と業務の進捗を定期的に点検するなどのマネジメント強化により、計画的に効率化を推進する仕組みを検討していく必要がある。

- ・最先端の研究を期待するのではなく、中小企業に役立つものを行うべきである。
- ・技術支援で使っている機器を研究でも利用できるような工夫はできないか。
- ・産技研には大学が保有していない機器が豊富にあり、こうした機器を利用して大学ではできないオリジナルな研究を行うことができるのではないか。

(2) 財務諸表、利益処分に対する意見聴取について

事務局から資料 3 ~ 4 により、財務諸表と利益処分について説明。

【委員意見】

- ・剰余金の主な発生要因は契約方法の見直しによる経費節減等であり、妥当な内容である。今後は業務と財務の進捗について定期的に点検し、マネジメントの強化を図っていく必要がある。

(3) その他

事務局から、次回以降の分科会の日程等について案内。

以上